

令和元年度 熊本市PTAソフトバレーボール

競技専用ルール

(1) コート、ネット、アンテナ、ボール (別紙、別図1・2)

① コートサイズ

- ・長さ 18m、幅 9m
- ・センターライン、アタックラインはなし。
- ・ライン幅は、コートの大きさに含まれる。

② ネットの高さ

2m30cm

③ アンテナ位置

両サイドライン（ネットの白リボンと一致）より 20cm 外側

④ 試合ボール

ソフトバレーボール

日本バレーボール協会認定球

外周 78±1cm、重量 210±5g

参考（メーカー型番 MIKASA：MS-N78）

※ 糸巻きタイプは、試合には使用しない。

(2) チーム、ポジション及びチェンジコート

- ① 6人制。ローテーションは無し。ポジション変更は自由とする。
- ② サーブが打たれる前でも、選手はコート外に出てもよい。
- ③ 1セット目と2セット目のコート内の選手は、メンバーチェンジの選手も含めて全員異なるものとする。ただし、各セットともに、6名のうち女性が3名以上で選手構成するものとする。
- ④ セットが代われば、コートを代わる。（チェンジコート）

(3) 点数とセット数

- ① 1セット 21点制、デュースなしで2セットマッチ。
- ② 決勝戦のみ 21点制、デュースなし3セットマッチとする。

(4) サーブ

- ① サーブは1本で、ラリーポイント制とする。（失敗した場合は、相手のポイントになる。）
- ② サーブは、エンドラインを踏まなければサイドラインの延長線に挟まれたサービスゾーン（別紙、別図1）のどこから打ってもよい。

- ③ サーブの打ち方（下手サーブ、フローターサーブ、ドライブサーブ、ジャンピングサーブなど）に制限はない。
- ④ サーブを打つ態勢で一旦トスを上げたボールを打たなかった場合は、フォルト（失敗）となる。やり直しはできない。
- ⑤ サーブしたボールがネットに接触した場合は、フォルト（失敗）とする。
- ⑥ サーブ順は各セットで変更できるが、セット毎に提出されたメンバー表のサーブ順に従って行う。メンバーチェンジした選手もチェンジ前の選手の順番でサーブしなければならない。
- ⑦ サーブは、主審のホイッスル後、8秒以内に打たなければならない。
8秒以内に打たなかった場合は警告し、繰り返した場合はサービスミスとする。
- ⑧ サーブを最初に打つチームは、試合開始時にジャンケンで決める。セットが変わり、次のセットの最初のサーブは前セットの最終サーブを打ったチームではないチームが打つ。

（5）打球とネットプレー

- ① ボールは身体のどの部分で触ってもよい。
- ② ボールに触れる際に身体の一部で静止した状態になってはいけない。「ホールディング」の反則。
- ③ 味方コートに入ってきたボールは3回まで触れることができる。
2回以下で返してもよい。3回の接触のうちに同じ選手が2回触れてもよいが、2回続けてボールに触れてはならない。「ドリブル＝ダブルコンタクト」の反則。
ただし、相手コートからの最初（第1打）をレシーブする際のみ、身体の2ヵ所で触ってもよい。
- ④ ブロックの接触も1回と数える。
- ⑤ サーブ以外のボールがネットに接触しても反則ではない。
- ⑥ 1回目でも、2回目でも、3回目の接触後でもボールがネットに触れたときは、もう1回だけ余計に触れてもよい。（ただし、この特例のネット接触は1回までとする。この場合、同じ選手が2回続けて触ってもよい。）
- ⑦ ブロックの時は、ボールがブロッカーに2度以上あたっても、瞬時の場合はドリブルにはならず、1回と数える。
- ⑧ ブロックしたボールに同じ選手がもう一度触れても良いが、瞬時ではない場合は2回と数える。
- ⑨ サーブが打たれてから、ポイントが決まるまでの間、選手はネットに触れてはならない。「ネットタッチ」の反則。

ただし、ボールの流れとは関係のない場面でのネットタッチは反則ではない。（この場合のネットとは、マーカーアンテナよりも外側の部分も含む。）

ただし、ネットを引っ張るワイヤーとひも、ネットを支える支柱に触ってもよい。
（別紙、別図2）